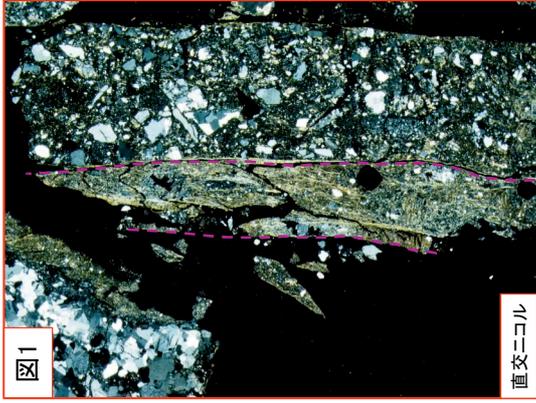
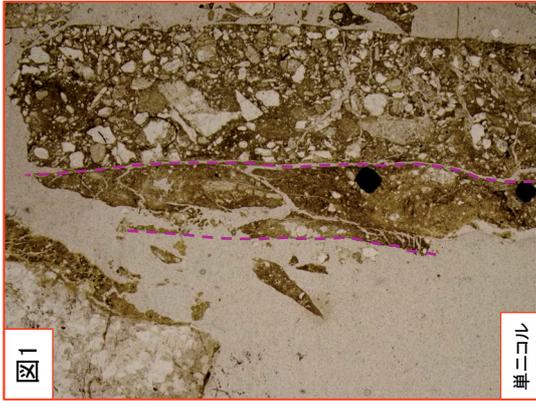
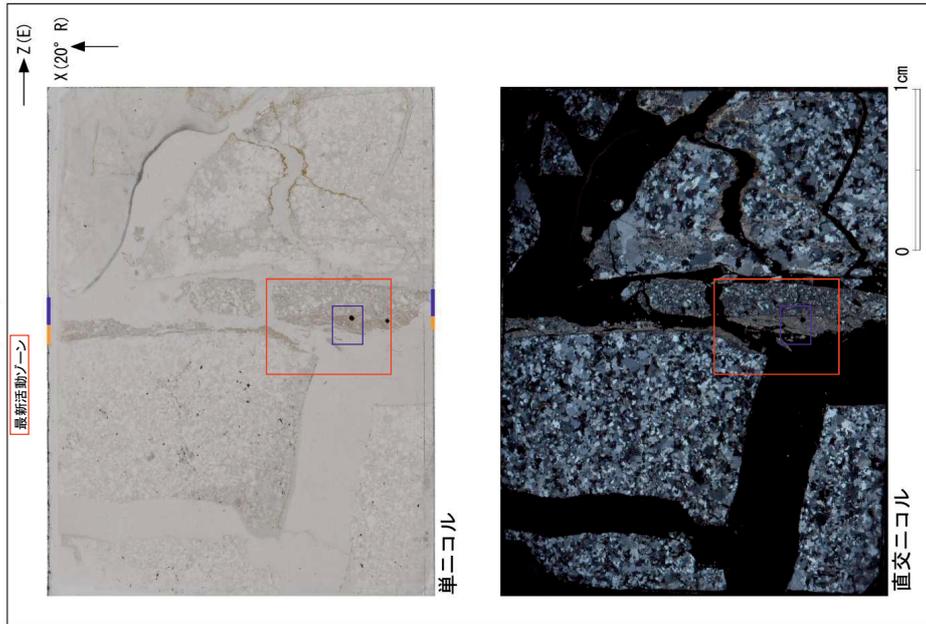
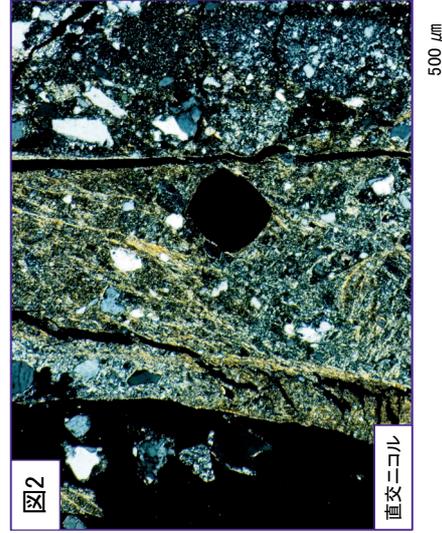
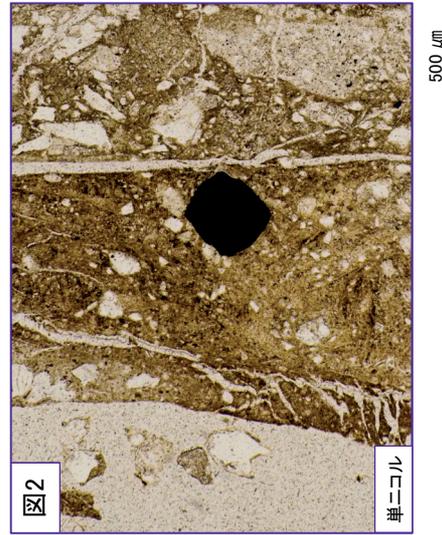


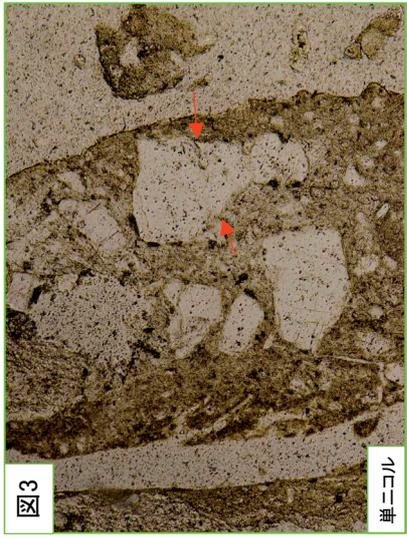
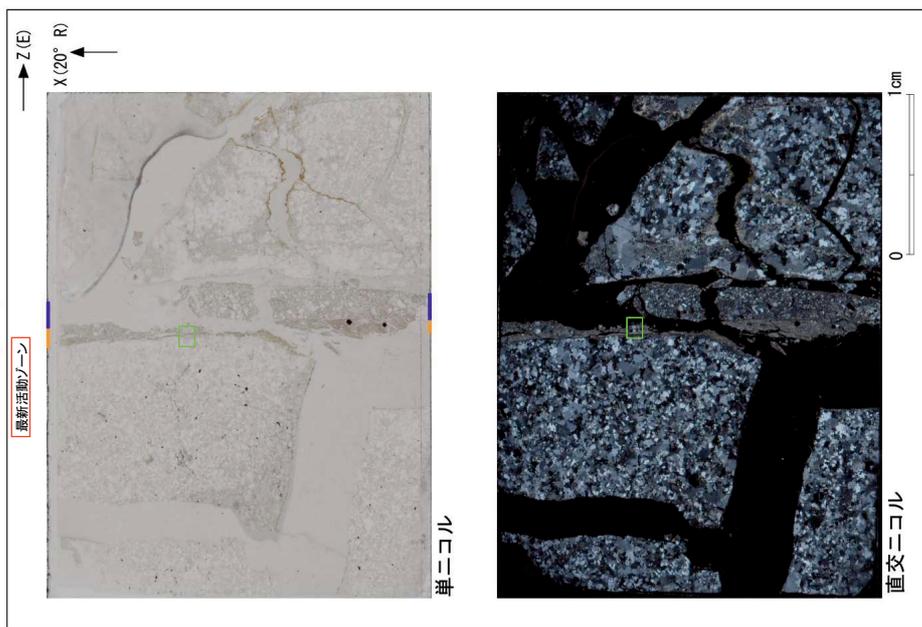
- ・最新活動ゾーンには、以下の特徴が認められる。
- 基質は粘土鉱物を主体とする。(図2)
- 粘土状部の分布は帯状で直線的である。(図1)
- 岩片は少ない。(図2)
- 丸みを帯びている岩片が多い。(図2)



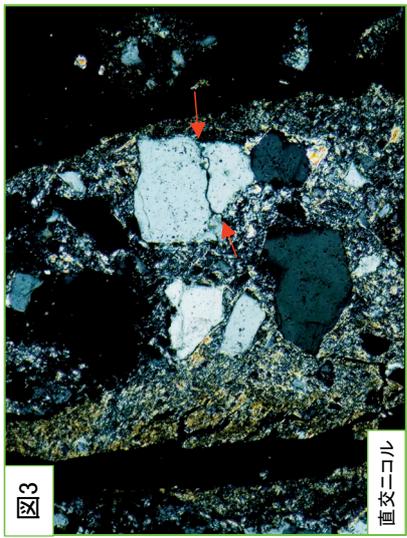
破線は帯状で直線的な粘土状部の範囲を示す



・最新活動ゾーンには、以下の特徴が認められる。
 > 岩片の粒界を横断する破断面が認められる。(図3)



赤矢印は岩片の粒界を横断する破断面を示す



(肉眼観察結果 深度128.87m)

- 肉眼観察では、礫混じり粘土状部は、軟質で、細粒部の連続性及び直線性が良く、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織も認められない。これらのことから断層ガウジであると判断した。

(観察位置)

- 薄片試料は、肉眼観察により認定した断層面 α に沿って最も細粒化した部分を含み、人為的な試料の乱れの無い部分で作製した。

※断層面 α は最新活動面

(薄片観察結果)

- 薄片観察では、以下の通り断層ガウジの特徴が認められた。

- 基質は粘土鉱物を主体とする。
- 粘土状部の分布は帯状で直線的である。
- 岩片は少ない。
- 丸みを帯びている岩片が多い。

- 薄片観察では、以下の通りカタクレーサイトの特徴が認められた。

- 岩片の粒界を横断する破断面が認められる。

最新活動ゾーンには、断層ガウジとカタクレーサイトの特徴が認められるが、カタクレーサイトの特徴は、カタクレーサイトが断層ガウジに取り込まれたものと考えられる。

以上より、薄片観察結果では、最新活動ゾーンの細粒部を断層ガウジであると判断した。



(総合評価)

当該破砕部については、以下の理由から断層ガウジであると評価した。

- 肉眼観察で確認された礫混じり粘土状部は、その特徴から断層ガウジであると判断した。
- 薄片観察で確認された最新活動ゾーンの細粒部は、その特徴から断層ガウジであると判断した。

断層ガウジ・断層角礫の有無	断層ガウジ・断層角礫の幅[cm] *	明瞭なせん断構造・変形構造 *
有	0.5	無

*: 断層岩区分の総合評価で断層ガウジ・断層角礫の有無が「有」の場合は肉眼観察結果を記載。
断層岩区分の総合評価で断層ガウジ・断層角礫の有無が「無」の場合は「-」と記載して括弧内に肉眼観察結果を記載。

・深度133.75mの「粘土状」と記載の箇所については、幅が狭いため、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織の有無を把握できなかったが、軟質で、粘土の連続性及び直線性が良い。これらのことから断層ガウジとして扱うこととした。

・深度133.75～133.80mの「粘土質礫状」と記載の箇所については、やや軟質であるが、含まれる細粒部は網目状に分布し、連続性及び直線性に乏しく、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織も認められる。これらのことから変質した力タクレーサイトであると判断した。

・深度133.80～133.92mの「粘土混じり岩片状」と記載の箇所については、全体にやや軟質で、一部軟質部を含むが、含まれる細粒部は網目状に分布し、連続性及び直線性に乏しく、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織も認められる。これらのことから変質した力タクレーサイトであると判断した。

ボーリング柱状図

●133.75～133.92m：破砕部
 133.75m：粘土状部 (Hc-1)
 傾斜45°で上下端とも直線的に連続。
 石英粒や岩片を含まない。軟質。明
 緑灰色を呈する。幅0.5～1mm。
 133.75～133.80m：粘土質礫状部 (Hb
)
 上端45°で直線的に、下端35°で波
 打って連続。粘土化した硬さ「E」や
 硬さ「D」の岩片を20～30%含む。や
 や軟質。硬さ「D」岩片中には直線的
 なせん断面と同方向の割れ目が分布
 する。緑灰色を呈する。幅30～40mm。
 133.80～133.92m：粘土混じり岩片状
 部 (Hj)
 上端35°、下端50°でともに波打つ
 て連続。大半が粘土化した径5～10mm
 の岩片で、岩片間は幅1～2mmの灰白
 ～緑灰色軟質粘土が脈状に分布する。
 上端側が緑灰色、下端側がオリーブ
 灰色を呈する。幅100mm。

コア写真



凡例
 断層ガウジ
 破砕部範囲※
 ※:写真上は白色で記載

深度133.75mの軟質粘土



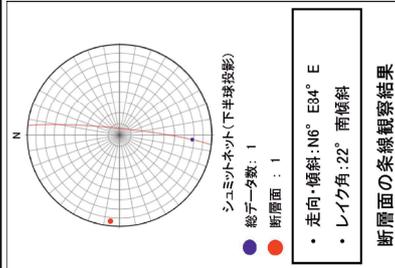
青砕部拡大

細粒部が網目状に分布する

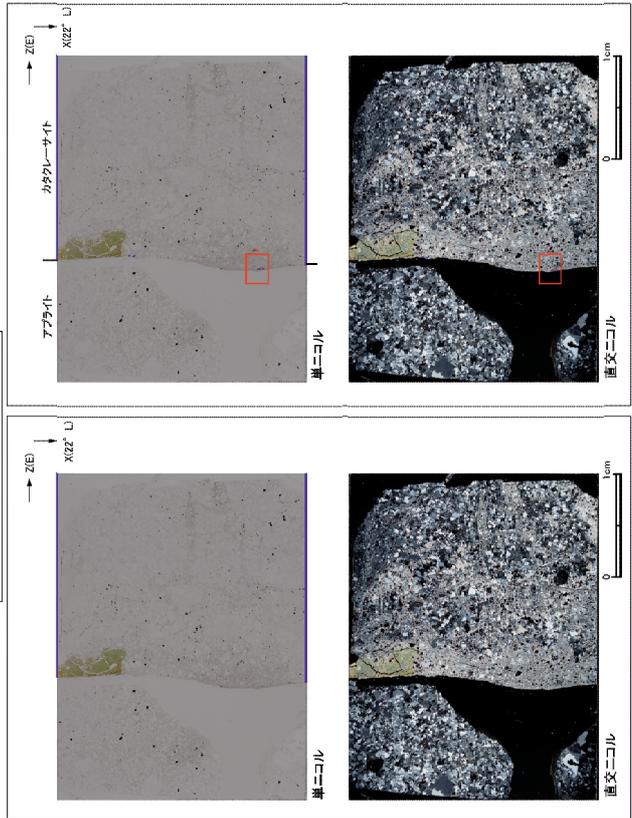
0 5 cm

・H27-B-2のボーリングゾーンから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動ゾーンの変位センスは、右ずれ成分が卓越する。
 ・最新活動ゾーンに以下の特徴が認められることから、カタクレーサイトのみからなる破砕部であると判断した。

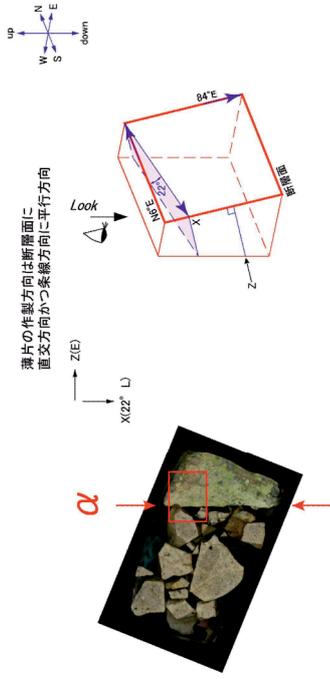
- (カタクレーサイト) 基質を構成する粘土鉱物は少ない。
- (カタクレーサイト) 組織は漸移的に変化する。
- (カタクレーサイト) 多様な粒径の岩片が多く認められる。
- (カタクレーサイト) 角ばった岩片が多い。
- (カタクレーサイト) 岩片の粒界を横断する破断面が認められる。
- (カタクレーサイト) ジグソー状の角礫群が認められる。
- (カタクレーサイト) 塑性変形した雲母粘土鉱物が認められる。



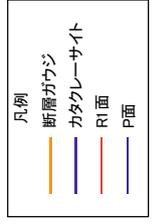
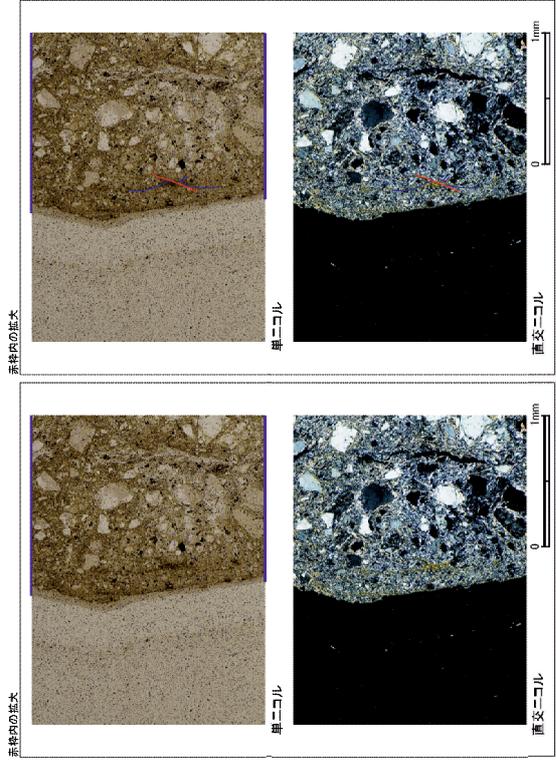
断層面の条線観察結果



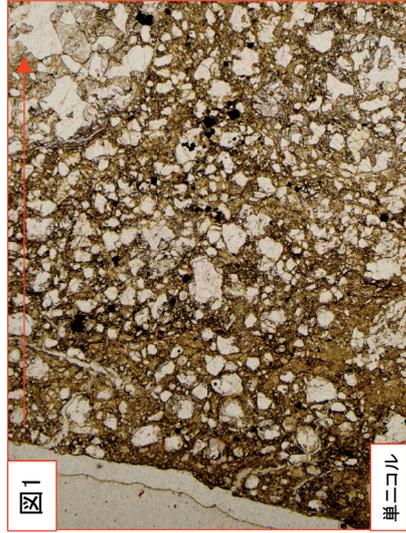
※断層面αは最新活動面



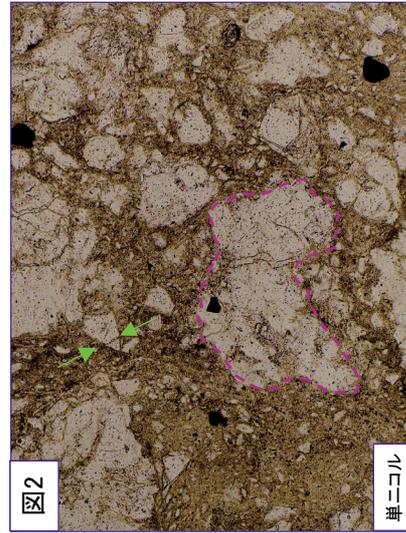
走向・傾斜 N6° E 84° E
 X: 条線方向(下向きを正とする)
 Z: 断層面の法線方向(上向きを正とする)



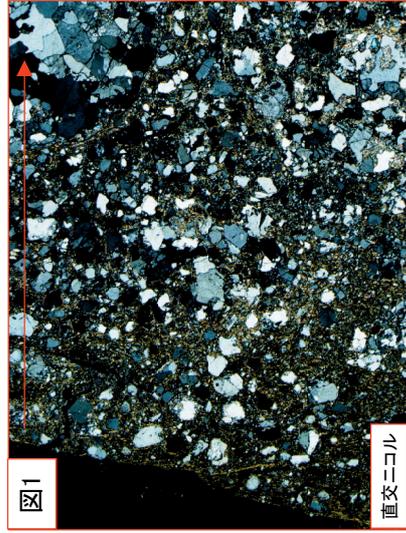
- ・最新活動ゾーンには、以下の特徴が認められる。
- 基質を構成する粘土鉱物は少ない。(図2)
- 組織は漸移的に変化する。(図1)
- 多様な粒径の岩片が多く認められる。(図2)
- 角ばった岩片が多い。(図2)
- 岩片の粒界を横断する破断面が認められる。(図2)
- ジグソー状の角礫群が認められる。(図2)



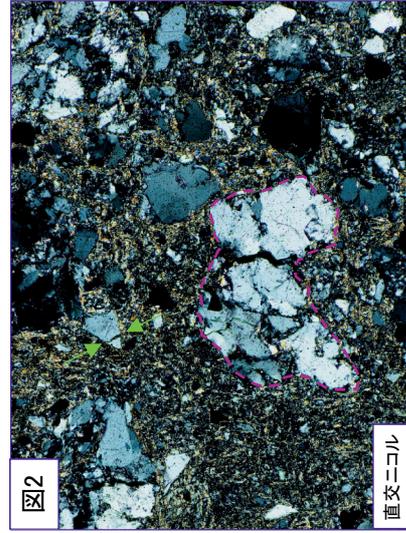
赤矢印：粘土鉱物が漸移的に減少する



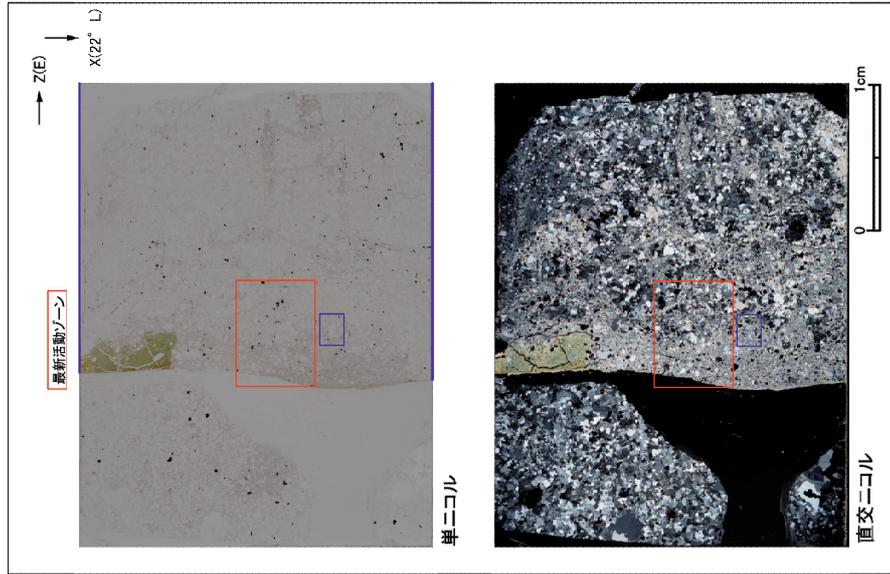
緑矢印は岩片の粒界を横断する破断面を示す
破線はジグソー状の角礫群の範囲を示す



1 mm



500 μm



第7.4.4.298図 (4)

破碎部性状 H27-B-2 深度133.75~133.92m (変位センス, 薄片観察による断層岩区分(2/3))